

り、味は渋い。

本品を鏡検するとき、繊維、らせん紋及び孔紋道管、単細胞毛を認め、更に多細胞性の腺毛、気孔を伴う表皮、さく状組織の破片、シュウ酸カルシウムの集晶、でんぶん粒などを認める。繊維は厚膜性で、膜孔がやや明らかである。単細胞毛は表面に小点状の突起がある。さく状組織は表面視円形の柔細胞からなり、細胞中にシュウ酸カルシウムの集晶が1個ずつ認められ、集晶の径は約 20 μm である。でんぶん粒は単粒、まれに2個の複粒で、卵形～球形、径 5～30 μm 、明らかなへそがある。

確認試験 本品 0.1 g に水 10 mL を加えて煮沸し、ろ過した液に塩化鉄(Ⅲ)試液 1 滴を加えるとき、液は黒青色を呈する。

純度試験 異物 本品を鏡検するとき、石細胞を認めない。

灰分 10.0 % 以下。

酸不溶性灰分 1.5 % 以下。

エキス含量 希エタノールエキス 15.0 % 以上。

コウカ

Safflower

GARTHAMI FLOS

紅花

ベニバナ

本品はベニバナ *Carthamus tinctorius* Linné (*Compositae*) の管状花をそのまま又は黄色色素の大部分を除き、压榨して板状としたものである。

性状 本品は赤色～赤褐色の花冠、黄色の花柱及び雄しべからなり、まれに未熟の子房を混有することがある。全長は約 1 cm、花冠は筒状で 5 裂し、雄しべは 5 本で、長い雌しべを囲んでいる。花粉はほぼ球形で、径約 50 μm 、黄色で表面に細かい突起がある。本品を板状にしたものは厚さ約 0.5 cm、多数の管状花の集合である。

本品は特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

確認試験 本品 0.2 g に希エタノール 10 mL を加え、還流冷却器を付け、15 分間煮沸し、冷後、ろ過する。ろ液 3 mL を内径、内高各約 3 cm のガラス容器に入れ、これに幅 20 mm、長さ 300 mm のろ紙の一端を器底に達するようにつり下げ、液を 1 時間吸い上げさせた後、引き上げ、直ちに水 3 mL を入れた同形のガラス容器中につり下げ、更に 1 時間後引き上げて検するとき、上部の大部分は淡黄色、下部は淡赤色を呈する。

純度試験 異物 本品は子房、茎、葉及びその他の異物 2.0 % 以上を含まない。

灰分 18.0 % 以下。

貯法

保存条件 遮光して保存する。

容器 密閉容器。

硬化油

Hydrogenated Oil

本品は魚油又は他の動物性若しくは植物性の脂肪油に水素を添加して得た脂肪である。

性状 本品は白色の塊又は粉末で、特異なおいがあり、味は緩和である。

本品はジエチルエーテルに溶けやすく、エタノール(95)に極めて溶けにくく、水にほとんど溶けない。ただし、ヒマシ油に水素を添加して得たものはジエチルエーテルに溶けにくく、エタノール(95)に極めて溶けにくく、水にほとんど溶けない。

酸価 2.0 以下。

純度試験

(1) 水分及び着色度 本品 5.0 g を水浴上で加熱して溶かすとき、液は澄明で、水を分離析出しない。また、この液を 10 mm の層として観察するとき、無色～わずかに黄色である。

(2) アルカリ 本品 2.0 g に水 10 mL を加え、水浴上で加温して溶かし、強く振り混ぜる。冷後、分離した水液にフェノールフタレイン試液 1 滴を加えるとき、液は無色である。

(3) 塩化物 本品 1.5 g にエタノール(95) 30 mL を加え、還流冷却器を付け、10 分間煮沸する。冷後、ろ過し、ろ液 20 mL に硝酸銀のエタノール(95)溶液(1→50) 5 滴を加えるとき、液の混濁は次の比較液より濃くない。

比較液：0.01 mol/L 塩酸 1.0 mL にエタノール(95)を加えて 20 mL とし、硝酸銀のエタノール(95)溶液(1→50) 5 滴を加える。

(4) 重金属 本品 2.0 g に希塩酸 5 mL 及び水 10 mL を加え、水浴上で時々振り混ぜながら 5 分間加熱し、冷後、ろ過し、ろ液 5 mL にアンモニア試液を加えてわずかにアルカリ性とし、硫化ナトリウム試液 3 滴を加えるとき、液は変化しない。

(5) ニッケル 本品 5.0 g を石英又は磁製のるつぼに量り、初めは注意して弱く加熱し、炭化した後、強熱して灰化する(500 ± 20 °C)。冷後、塩酸 1 mL を加え水浴上で蒸発乾固し、残留物を希塩酸 3 mL に溶かした後、水 7 mL を加える。次に臭素試液 1 mL 及びクエン酸一水和物溶液(1→5) 1 mL を加えた後、アンモニア試液 5 mL を加えてアルカリ性とし、流水中で冷却する。この液にジメチルグリオキシム試液 1 mL を加え、更に水を加えて 20 mL とし検液とする。検液を 5 分間放置するとき、その液の呈する色は次の比較液より濃くない。

比較液：塩酸 1 mL を水浴上で蒸発乾固した後、ニッケル標準液 1 mL 及び希塩酸 3 mL を加え、更に水 6 mL を加える。以下、検液の調製法と同様に操作し、水を加えて 20 mL とした後、5 分間放置する。

強熱残分 0.10 % 以下(5 g)。

貯法 容器 密閉容器。

乾燥甲状腺

Dried Thyroid

本品は食用獣の新鮮な甲状腺をとり、結締組織及び脂肪を除き、すりつぶし、50 °C 以下で速やかに乾燥した後、粉末としたもの、又はこれに適当な賦形剤を加えたものである。

本品は定量するとき、甲状腺に特異な有機性化合物としてのヨウ素(I:126.90) 0.30～0.35 % を含む。